

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		職員一人ひとりがいつも理念を念頭において日々ケアに取り組んでいる。掲示の方法も職員間でアイディアを出し合い工夫している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を全職員が理解し共有した上で、日々の理念の実践に取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		家族、地域の方々にも来苑時等、理念の実践に協力いただいている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		推進会議に参加していただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		職員一人ひとりが積極的に情報収集し、計画して、たくさんの方々と交流できるように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	SOSネットワークへの登録と協力をしている。		認知症高齢者の相談に協力している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、全職員一人ひとりが、外部評価に当たって評価項目を記入し、それを基に話し合い、改善点を明確にし取り組んでいる。	○	自己評価での改善点を明確にし、全職員が認識し、一つ一つ確実に改善していくように取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は参加者の見直しを行い、家族の方全員と近隣の方、地域の方と、参加者も多くなりホームの報告や意見交換も活発になってきている。 推進会議の内容も、全職員で話し合っている。		話し合いだけではなく、心肺蘇生の講習会をしたり、推進会議参加者全員と入居者・全職員で野芋の子会を行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に訪問し、近況報告を互に行っている。市町村に苑便りを届け報告すると共に、意見や情報を聞き、取り入れている。		定期的に訪問し、分からない事や困った事をその都度相談している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、入居者の中に利用していた方がいた。	○	12月研修予定にしている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者からの悩みや相談を聞く機会を多く持つようにしている。	○	施設内研修を行う予定

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書,同意書を示し、十分時間をかけて説明している。</p>	<p>入居、退居時に、本人・家族とよく話し合い、説明を行っている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、職員は入居者の話を良く聞き対応している。市の介護相談員を受け入れている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常で変化があった場合は電話報告し、面会時に近況報告をしている。</p>	<p>苑だよりでの報告と、毎月入居者一人ひとりの家族への近況報告書を送付している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、来苑時、運営推進会議等、意見や相談を聞く機会を設け、対応している。</p>	<p>家族の面会時、気軽に何でも話せる雰囲気家族に接し、情報の共有に努めている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の申し送りや、月2回のミーティング、年2回の個人面談で、意見や提案を聞いて反映させている。</p>	<p>行事、レクリエーション、地域との交流等、職員が主になり提案、実行している。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の調整や業務の変更は柔軟に対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が永く勤務できるように、人間関係やストレスの軽減に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は職員の意思を尊重し、できる限り参加させている。</p>	<p>資格取得のための研修等、参加しやすいように勤務体制や休日を配慮している</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH定例会や、勉強会に積極的に参加している。</p>	<p>○ 他ホームとの相互交流に努めていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>気軽に相談や話ができるように努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務実績や内容を把握し、個人面談の機会を設けている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に必ず本人と面談し、話を聞いている。自由に見学できるようにしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に必ず家族と面談し、不安や要望を聞き、安心して利用できるように努めている</p>	<p>利用者と家族の思いを、苑での生活に活かせるよう努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を傾聴・受容し、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学する事で、雰囲気を感じてもらい、本人が安心して納得した上で、入居して頂くよう努めている		馴染みの物を持ち込んでもらうようにしている。家族という相談し、環境に馴染める様、協力していただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、理念でもある喜怒哀楽を共有し、色々な事を場面場面で学んでいる。常に感謝の言葉を伝えている。		入居者一人ひとりが、それぞれ得意な事が発揮できるようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会等で、本人にとっての家族の重要性を説明し、理解してもらいお互いに協力合っている。		入居者が不安なときは、家族に電話をかけて、入居者の不安の軽減に協力して頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の家族関係を理解し、良い関係が継続できるようにしている。		入居者の思い、家族の思いを双方に伝えて、理解してもらうように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問してこられる方はいつでも気軽に受け入れ、馴染みの場所(買い物、ドライブ)にも出かけ、関係が途切れないように支援している。	○	入居者一人ひとりの馴染みの場所へもっと多く出かけられるようにしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を日々把握し、職員が関わり、コミュニケーション作りに努めている		自ら歩み寄れない方はスタッフが介入し、かわりが持てるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に転所した利用者に面会に行っている。家族と会う機会がある場合は挨拶や声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話・表情・行動を一つ一つ観察し、希望や意向を引き出すようにしている	○	会話の中で発する言葉一つ一つをしっかりと受け止め、何をどうしたいのか、どう思っているのかを察知し、問いかけながら希望、意向を引き出すようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で本人から聞いたり、本人が分からない時等は、家族から聞いて把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活を観察し、変化に気付いた時は、常に職員間で情報交換し、現状の把握に努めている。		毎日の申し送りや、気付きノート等で全職員が現状を把握するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望・意向を重視した上で、家族の希望・意向も聞き作成している。		本人の希望意向がかなうように家族にできる範囲で協力して頂いている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々、観察の結果を申し送りやカンファレンスで検討している。	○	期間を問わず、変化に応じて見直しをしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化等気付いた事は、個々のケース記録・申し送りノート・気づきノート等に記入し、全職員が情報を共有している。	○	日々の気づきを、介護計画の見直しに活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々に応じ、地域の公共機関(交番・消防署・市の出先機関)に協力をして頂けるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの訪問、近隣の小学校との相互交流や、地域の消防団や駐在所からの訪問を受ける等している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具等の購入時には、専門業者と相談して適切なものを選んでいく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと情報交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望したかかりつけ医を受診する時は健康状態の報告や、相談をしている。		可能な限り、家族に受診の付き添いをお願いし、状態をお互いに把握できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医や精神科医が気軽に相談に応じてくれている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医の看護師との連携		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当医と相談し、情報交換を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望も聞き入れ、事業所でできる事、できない事を説明し、話し合いを行いながら方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	運営者・全職員で話し合い、検討し、事業所でできる事、できない事を見極め、かかりつけ医とも相談しながら支援している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や転居先の担当者と話し合い、情報交換している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの気持ちを把握し、十分に気配り・心配りをして声かけや言葉遣い・対応に配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中でいつでも気軽に話せるような場面作りをしている。行動時は、本人主体で行えるように心がけている。	一人ひとりとの会話を増やし、何でも話せる環境作りをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ一人ひとりのペースを把握し、希望を取り入れ支援している。	散歩、イベント等の外出支援。外食や買い物なども家族に協力して頂いている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容師が来苑してカットを行っているが、本人希望時には家族の協力を得て、望む店にいけるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューや好みものを聞いたり、得意な料理を職員と一緒に作っている。	料理が得意な方、片付けが得意な方、それぞれの得意な事をして頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分摂取、おやつ、行事、誕生会などで、希望を取り楽しんでもらえるようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しながら、それぞれのパターンに合わせて、声かけや誘導を行い失敗を減らすように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴となっているが、本人の希望も聞いてその都度、臨機応変に対応している。日々、入浴順番を変え、一人ひとり楽しんでゆっくり入浴できるように配慮している。		入浴できない日は、本人に説明し、了解を得て、足浴・清拭で対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝・起床時間を決めず、一人ひとりのペースに合わせている。日中もそれぞれ、自由に居室で休めるようにしている。		日中、散歩や日光浴をしたり、体を動かす事で、夜間の安眠につながるようにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話やTV鑑賞、ギター演奏等、一人ひとりが好きな事をして楽しんでいる。気分転換できるように、散歩やドライブ等、外出する機会をつくっている。		掃除・料理等、一人ひとりの得意な事で、力を発揮できるように支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金(小遣い)は、苑で管理している。買い物時にはサイフを渡し、会計してもらっている。1度、外出時に一人ひとりが財布を持ち、好きなものを買って、各自で支払いをもらった。	○	一人ひとりが、各自の財布を持って外出する事を習慣にしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や声かけで、散歩やドライブ・買い物にでかけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月ごとに担当者が計画を立てている。地域の行事やイベントを調べ、参加・見学をする機会をつくっている。家族も一緒に参加できる行事を計画し、利用者・家族が共に楽しめるようにしている。		歌謡曲、民謡など好みのイベント参加

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから荷物が届いた時には、必ず電話をかけ、本人からお礼を伝えてもらっている。定期的に家族から手紙も届き、職員がサポートしながら返事を書いている。		家族等に、いつでも手紙が書けるように、はがきや便箋を用意している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人等の訪問時は、利用者の自室・リビング等で自由に過ごしてもらっている。他の利用者とも交流を図ったり、職員も挨拶以外にいろいろな会話をすることで、居心地良く過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、身体拘束はしていない。言葉の拘束にも気をつけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけず、チャイムで対応している。居室入り口に、鍵はついていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の声かけを行い、利用者の居場所や様子を把握している。居室にいる入居者は、様子を伺い安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等の危険な物は、棚にしまい鍵をかけている。一人ひとりの状態に応じ、危険と思われる物の置く場所に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成している。ヒヤリハットを活用しながら、事故を未然に防げるよう話し合いをしている。事故が起きた場合には、全員で話し合い、再発防止に努めている。		SOSネットワークに加入している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。消防署から心肺蘇生法の講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方から、災害時の対応についての講習を受けたり、防災訓練を行っている。地域の消防団や駐在所にも災害時の協力を依頼している。		災害時に備え非常食などの物品も揃えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や面会時または電話等で、現状報告しながら話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回ずつバイタルチェックを行い、一人ひとりの様子観察をしている。体調に変化があったときには、ケース記録に記入したり、申し送りで全職員が把握できるようにしている。必要に応じて受診している。		夜間、利用者が急変した場合には、近くに住む職員に来てもらい対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報をファイルに綴じてある。薬の変更があった場合は、申し送りや申し送りノートに記入し、全職員が把握できるようにして、様子観察も行っている。薬の準備は、職員2名で二重に確認しながら行っている。本人が確実に薬を飲み込むまで、見守り確認している。	○	一人ひとりの服薬している薬や副作用について、理解を深めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事量や水分量のチェックを行い、食材や調理の工夫をしたり、飲み物の工夫をしている。散歩や体操など、体を動かす機会をつくっている。	○	食事面や運動面での工夫を行い、薬に頼らず、自然に排便できるようにしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声がけ誘導と、必要に応じて介助をしている。夜間は、義歯洗浄、消毒を行っている。		協力医療機関の歯科医による、口腔内の診察も行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士の指導を受けている。一人ひとりに合わせた量、形体で食事提供を行い、食事量や水分量の記録もを行っている。料理についての研修会にも参加している。	○	一日の食事摂取量や栄養バランスについて、再度検討していきたい。水分摂取量の少ない利用者への、提供方法を工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての、勉強会を行っている。食前や外出後には、手洗い・うがいを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板・包丁・布巾・食器類のハイター消毒を行っている。食材は賞味期限が分かるように、ホワイトボードに記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇に季節の花を植えている。玄関には、季節に応じた置物や花を飾り、常に照明を明るくしている。スロープや手摺を設置し、玄関に椅子を置くことで、安心して出入りできるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者の作品や書道を展示している。		利用者が季節を感じられるように、季節に応じた飾りを利用者と共に作り、飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や、リビングのソファ・椅子に座ったり、ウッドデッキで過ごしたりと、自由に過ごす事ができる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や楽器、仏壇を持ってきてもらっている。家族の写真や本人の作品、人形や小物、花等を飾り、居心地の良い居室になるように工夫している。		家族から、利用者が自宅で使用していた物や使い慣れた物等を聞き、持ってきて頂いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者に聞きながら、冷暖房を使用し温度調節を行っている。天気の良い日は利用者の了解を得てから、窓を開け換気を行っている		床暖房使用時には、居室に濡らしたバスタオルを干し、乾燥にも配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や、ベッドに柵を設ける事で、安全に自力で移動ができるようにしている。転倒や怪我が無いよう、移動しやすい環境作りをしている。		身体機能に応じて、利用者の了解のもとで、より安全に自立した生活を送る事ができる居室への変更も行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名札、トイレ入り口には名称を貼り、トイレの中には、流し方や水の出し方を紙に書いて貼っている。必要に応じて声がけや誘導を行っている。リビングのテーブルには各利用者の席に名前と写真を貼っている。		機能障害のある利用者への対応として、白くて見えにくい手摺や蛇口、椅子等に赤いテープを貼り、使用しやすいように工夫している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭の畑や玄関前の花壇の手入れ、野菜の収穫や鑑賞をしている。天気の良い日は、ウッドデッキや苑庭にテーブルと椅子を置き、日光浴をしたり、お茶を飲みながら会話をしたり、歌を歌って過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない